

XCIJ首都圏支部会設立と第一回XCIJ首都圏支部会研究集会の報告

XCIJ首都圏支部会（XCIJ-MA）が設立され、第一回研究集会が10月18日（土）に開催されましたので、XCIJ-MA運営委員会より、設立の経緯と研究集会に関して報告いたします。

XCIJでは2007年より日本ツメガエル研究集会（福井彰雅代表）が開催され、2年に1回のペースで今後も集会を開くことになっています。しかしこの全国規模の研究集会に参加できない人も多いため、日帰りで誰でも容易に参加できる地域的なツメガエル研究集会を開きたいという趣旨をもって平良準備委員長よりXCIJ首都圏支部会（XCIJ-MAと略称）の設立が提案され、本年8月18日付けでXCIJ世話人会より設立が承認されました。そこでまずは顔見せも兼ねた第一回目の研究集会を行うこととし、できるだけ多くの方が参加できる日時ということで10月18日（土）が開催日、東京大学理学部2号館第二講義室が会場に選ばれました。1研究グループから1演題を目標に、PIによる発表を4題程度とし、各研究グループからポストドクまたは学生による発表を1題ずつ募ったところ、18もの演題が集まりました。費用や準備の負担を少なくし手軽に集会を開きたいということで、演題のみのプログラムを電子メールで配布し、当日は昼食持参という簡便な方法をとりました。それにも関わらず参加して下さった方は、スタッフ・PDが31名、学生39名、合計70名という、予想を上回る人数で、遠くは新潟、静岡からも参加して頂きました。午前11時にスタートし、平良運営委員長からXCIJの概要および支部会設立の趣旨説明、運営委員の顔ぶれが紹介された後、口頭発表に入りました。ポストドク・学生は持ち時間15分の発表、PIの方は研究の背景も含めて20分の発表を行ってもらいました。卵形成から性の決定まで、アフリカツメガエルの様々な研究について最新の成果発表と活発な議論が行われ、発表会が終了したのは午後6時でした。その後、発表会会場を懇親会会場につくりかえ、参加者のほぼ全員が夜8時まで交流を深め、大盛況のうちに研究集会を終えることができました。今回の研究集会について学生さんから、「話しやすく聞きやすい雰囲気だった」という感想を聞き、「日帰りで誰でも容易に参加できる研究集会」にするという目的を果たせたと実感しています。最後に、会場の世話役を努めて頂いた平良研究室の皆さんには、会場ならびに懇親会の準備、後片づけまでたいへんお世話になりました。心より感謝申し上げます。

尚、今後の研究集会開催については春と秋の年2回を目標に、次回は道上先生を実行委員長として東京大学駒場キャンパスで3月下旬の開催を予定しています。研究集会への参加は会員以外の方でも自由に参加できますが、発表希望の方は事務連絡の都合上、研究室単位でXCIJ-MAへの加入をお願いいたします。加入希望の方は伊藤弓弦運営委員（産総研：yuzu-itou@aist.go.jp）までご連絡下さい。